

ほんにかえるプロジェクト 会報

2016年1月創刊

かえるのうた

第20号

2020・4月



画：k・k

ほんにかえるプロジェクト発行
汪楠責任編集

咲き急ぎ 散り急ぐ花 春霞
たゆたう時の 行方しらねど

会長 田中 伸彦

今年は桜の開花が早くなりそうな予報もあります。

弥生の空の朝焼けに、春の訪れを感じるこの頃。

夜明けが日ごとに早まり、日の入りが少しずつ遅くなっていきます。

かえるメイトの皆様、この季節の変わり目をどんな思いでお過ごしでしょうか。

世の中は新型肺炎蔓延の脅威で騒然としています。

“自然とは自然の法則にただ従っていくものだ”と言う説もあるようですが私たちを取り巻くこの地球という惑星を含めた大宇宙にある自然は、様々な形で私たちの前に現われます。

太陽の輝き、夜空の月や星々の遙かな光、いつ果てるともない海の満ち引き、風の爽やかなそよぎと猛々しい嵐、静かに立ち尽くす木々を支え続ける大地、その大地に棲む数限りない生き物たち、植物、動物、微生物。

哺乳類の一種である私たちホモサピエンスはその中のほんの一部に過ぎません。

今騒がれているコロナウイルスも分類上は生物ではないようですが、細胞は持たないが遺伝子を持ち宿主に寄生し繁殖するようです。

そのメカニズムを解明し、効果的なワクチンを創りだす日がやがてくるのでしょうか……

過去に遡っても感染症を人間の叡智や科学で克服した歴史は、天然痘、狂犬病、結核、ポリオなど数々あります。

敢えて誤解を恐れずに言わせて頂ければ、こうした疫病や自然災害などの出来事は、ある見えざる大きな力が私たちに伝える一つの警告であると私には思えます。自戒をこめて、慌ただしい時の流れの中で立ち止まり、足元を見つめ直してみようと思っています。

先日、アイヌにまつわる芝居を観ました。イオマンテの祝祭に込められたアイヌ民族の想いに、感じ入るものがありました。

自然と人間とのつながりが生み出す奥深さに気づかされました。

終わりにさくらの季節に詠まれた歌を。



散りぬべき 時知りてこそ 世の中の
花も花なれ 人も人なれ

お別れにあたって

副代表 井手愛子 s.c.q.

半世紀以上も前から見続けていた私の夢は、受刑者の方々と交流することでした。いつの日か文通できるように、便箋や封筒を集めていました。

しかし、教育現場の業務に追われ、夢を諦めました。

そんな時、発起人の汪さんから副代表就任の依頼があり、喜んで引き受けました。2015年9月でした。

キング牧師の有名な ”I have a dream” で始まる演説で、「いつかジョージア州の赤土の丘の上で、かつての奴隷の子孫たちと、かつての奴隷所有者の子孫が、同胞として同じテーブルにつくことができるという夢です。」とあつく語りかけました。

私も「ほんにかえるプロジェクト」が、塀の内側の人々と外側の人々が同じテーブルにつき、出会い、語り合い、集い遊べる場、ホームグラウンドになるよう、私のモットーである「微力ながら最善を尽くす」努力をしてきたつもりです。

初めのうちは、山積する事務処理に無我夢中でした。しかし時を経るごとに、スタッフ間の価値観の違い、考え

方の違いがあり、齟齬をきたすことも頻出しました。

異文化とは日本と諸外国間にだけあるのではなく、同じ日本でも東京でも地域により、生育環境や、世代によって、文化が異なるのです。ほぼ同じ文化圏で生きてきた私には、驚きの連続であり、理解不能な場面も多々ありました。乗り越えるには双方対話の努力と異質なものを受け容れる寛容さが求められます

私も 80 歳になりました。これまでの修道院から高齢者施設に移りました。プロジェクトに関わる時、80 歳を目安にしていましたので、3月をもって副代表を辞任いたします。在任中の行き届かなかった諸々の不備をお詫び申しあげます。これからは一般会員として、文通を続けてまいりますので、引き続きお付き合いのほど、宜しくお願い申しあげます。



最後に、特に内部会員の皆様のために、祈り続けることをお約束します。日々が苦痛に満ちているかもしれません。しかし、そのような時、「祈っている人がいる」ということを忘れないで刑務にお励みください。

私の新住所

〒158-8678 世田谷区上用賀 3-19-8
フランシスコ・ヴィラ

井手愛子

事務局長たより

汪 楠

会員の皆様、ご無沙汰しております。フジテレビのザノンフィクションに報道されてからは多方面で注目され、多くの方々から応援メッセージやご賛同をいただきました。心から御礼を申し上げます。ごく一部ですが、刑務所生活を送っている方からも視聴しましたよというお手紙をいただきました。見逃したよという知人や会員からのお手紙もありました。事情を説明しますと、今回のテレビ報道の目的は社会的知名度を上げる為のではありませんが、賛同してくれて、活動に参加してくれる方が出てきてくれたらという期待と、刑務所から出てきて生き方に迷っている出所者に私のような中途半端な人間でも信じる道に進み、それなりに有意義に生活していること、こうして支援する人もいることを伝えたい。

反対に中国人は中国に帰れとか、ちゃんころは日本で犯罪するなよとか、犯罪者は全員死ぬといわれるだろうと想定したうえで、取材に応じました。結果的には肯定的な意見がほとんどで、否定的な意見の少なさにびっくりしました。放映後の現状を話します。PJと私個人のお金も盗んだ仮名ワタルは、彼を同情し、私から引き受ける形で保護した仮名ケンジとしばらくは私の妻が所有する家に同居していたのですが、ケンジ

が刑務所で働き、貯めた20万円ほどの作業報奨金をまた盗み、逃げました。一方、ケンジは私のそばにいて、私の妻が経営するスナックのホステスと仲良くなり、10歳も若い彼女と結婚するという報告を受けました。しかし喜んだのもつかの間、ケンジは鉄筋屋の仕事がきついと言って、仕事を辞めてしまいました。しばらくは彼女の収入に頼って生活していました。二人の仲も悪くなり、ハラハラドキドキの毎日です。私はペンキ屋の仕事を勧めたが、彼女が病弱という理由で断られた。PJの活動に数日だけ参加しましたが、その都度お小遣いをくれよとせびり、もらえないとわかると参加しなくなりました。本人から事情を聞いたところ、地元に戻ればこんなみじめな生活をしなくてもいいのに、今じゃオシャレのお金もないと愚痴っていました。

仕事についてはやる気はありますが、給料(日給)は12000円では安すぎる。ほかの親方に16000円だか18000円で誘われているという。そんなにももらえる所があるなら、行くべきだよと私も思いましたが、実際は雇ってもらえなかったようです。しょっちゅう前借りし、朝も車で迎えに来てくれていた私が紹介した会社の親切を当たり前と考えていたようで、他社はそんなに甘くなかったようです。PJの活動に参加すれば交友関係も広がるし、認めてくれる人がたくさんいるから得るものもありますよとアドバイスしたのですが、「汪さんを助けたいと本当に思っています、ハイそのうちに行きます」と答えるも来ませんでした。

仕事のあっせんで搾取され、ボランティア活動でもタダ働きさせられるのは御免と考えているようです。

改めて彼が刑務所の中で私宛に書いた手紙を読み直しました。しっかり働き、活動に参加して人の役に立ちたいとありましたが、現実問題として働くのはつらいし、活動は無報酬で馬鹿らしくてやてられないと思うのも無理はない。彼女と二人きりで過ごし、だれにも邪魔されたくないという思いにとらわれている。まったく結構な恋愛物語です。私もそう願いたい。悲しいことに私にはそれだけの経済力はない。ケンジの彼女も10歳も年上のヒモはいらないと考えるかもしれない、ここは私の憶測でしかないので、断定はできません。健気に頑張る女性も世の中にいますし、私の妻のように椎間板ヘルニアを患っても週に2回の牽引と注射で働き、私を支えているのが事実です。

ケンジは自分の彼女は水商売を本当はしたくないと言っているからやめさせたいと言ってきた。私は、妻も同じく水商売をしたくないし、そもそも私も働きたくないと答えた。働かなくても生活できるなら私は働きたくないダメ人間です。ごめんなさい。

ワタルに関しては警察に通報していません。彼をもう助けることはできない。ケンジに関しては助きたい気持ちは残っているものの、働かない者をどう助けて良いか私にはわからない。幸いにも彼女からケンジは派遣で介護の仕事をはじめたという報告を受けた。

昨晩は精神安定剤を飲んだというケンジがろれつの回らない口調で、汪さんに文句を言っているわけではないがと前置きされたうえで、汪さんを助けたいのにその気持ちを汲んでくれないと言われました。私は働いているし、家もあれば妻とも仲がいい。お前の助けを必要としている状態ではないと答えながら、内心では毒を吐いていました。新婚生活は順調です。妻はまっすぐな性格で、キツイことを言うけど心は温かい。周りの人には時には厳しく、時には優しく、そして経済的にもみんなを支えています。こんな現状ですが、今日も4時間しか寝てなくて、頑張っています。受刑中の皆さん、シャバの生活は想像以上に厳しいものです。それでもお金を前提とするかしないかの自由があり、ギスギスする職場の中にも必ず優しくしてくれる仕事仲間がいます。



安い発泡酒もおいしく感じるし、頭が痛くなる安い焼酎でも一緒に

飲むメンバーが楽しければおいしく感じます。

刑務所で読んだ親鸞の歎異抄を男同士で語り合うのも実に楽しい。

悪人正機説を酔っ払い同士がとめどなく話すのは女受けはよくないし、本人たちも翌日には何も覚えていなかったりするけど、そのひと時が実に充実するものです。ぜひ一緒に語り合おう。

誕生カードをお贈りしました

誕生カード担当

M.ロザリア



「主は人の一歩
一歩を定め 御旨
にかなう道を備え
てくださる。」

(詩編 37: 23 節)

今年は暖冬で、春の訪れも例年より
早いですね。

皆さんがこれを読む頃には、あちこ
ちできれいな花が咲いていることでし
ょう。皆さんの健康が守られるように
祈っています。

1月、2月、3月生まれの皆さんにカ
ードを贈りました。下記の方々です。
お誕生日おめでとうございます!!

1月生まれ MAさん、S.Mさん
T.Yさん

2月生まれ YIさん、K.Kさん
S.Iさん、H.Nさん
T.Nさん

3月生まれ K.Nさん、T.Nさん



年末年始のあれこれを日記風に

12月、師走に入っても比較的暖かい
日が続き、本当に助かっています。い
つもなら足や手に霜焼けがひどく、血
や赤切れがひどくなるのに、まだです
のでそれだけでも楽です。

12/20 に提供本が届いたと告知がき
きました。こちらは届いてから 20 日ぐ
らい掛かるので正月には間に合わな
かったですが、本当に感謝していて、応
援して下さる人が身近にいるんだと
勇気と希望を与えてくれて、何よりも
代えがたいものです。本日 12/21 です。
12/27～1/5 までの 10 連休となり、2 回
の入浴以外は寒い独房の中 (いつもは
昼間の 2 時間ですが)、この時期は延
長されるので、布団に入り冬眠 (寝正
月) となりそうです。この手紙を年内
最後の 26 日にするか、新年 1 回目の
1/6 にするか考えた結果、後者にする
ので、こちらの休みなど日記形式で報
告していきます。

12/25 には 5cm×4cm ほどのアイス
ケーキと 200ml のカフェオレが支給
されました。メリー・クリスマスです。
ラジオから流れる音楽はクリスマスソ
ング特集です。日本のクリスマスはプ
レゼントを贈るデパートなどの商戦や

恋人たちをあおる俗的な感じを感じてしまうのは年を重ねすぎたせいでしょうか。まあ年に一度しか味わえないケーキも食べましたし、12/26の1日で仕事おさめという事で1日をがんばるのみとなりました。ここへ来て例年並みの寒さになってきました。

12/27、今日から長期正月休みです。と言っても今日一日は一日中部屋にて読書の日と決められています。これが月に2回あるのですが、まさに地獄です。寒い中、一日中座ってのものは腰痛持ちのものとしては苦痛以外のなにものでもありません。昨年から携帯カイロ(10個390円)のものが買えるようになりましたが、金銭がある人は1ヶ月30個まで買え、あたたかく過ごせますが、無い人にとっては寒さを我慢し続けなくてはならず風邪などひいてしまいます。どうせなら舍房の廊下でもストーブを多くするとかしてほしいです。

12/28から本格的な休みで、12/29に飴1袋、ピーナッツチョコ1袋、海苔ピーナッツ1袋、四季の味1袋、みかん(小)8個、バナナ2本。

12/31、正月用折詰、まんじゅうが支給されます。私の入所した10年前に較べると段々と減ってきていますが、社会では食べられなく困っている人のことを思うと有り難く頂きます。不平、不満を言っても増える訳でなく、食べ物で言ってもみっともないわけで。12/31は、いつも9時消灯ですが、大晦日とあり、今日だけは0時まで起き

ていられます。慣れない事もあり、まぶたが段々下がってきますが、流れてくる紅白を聞きながら0時の年越しを迎えました。うっすら窓を開けると鐘の音が聞こえてきて、私も眠る前にもう今年の事、これからの令和2年の事を考え、祈って眠りにつきました。

寒波がやってきたので、正月一日は眠いのではなく寒くて目がさめました。庄子さんの方も昨年は忙しかったのではないのでしょうか。私のような身内のない人間に支援・応援してくれてる事が何ものにもかえれないほど勇気づけられますし、なにより生きがいに感じ、がんばろうという気ができます。私もこの施設に入所して、関係のない事、職員にだまされ、長い間独居生活も受けてきて、信じる気持ちは持てません。入所して直ぐにつまずいたので、やる気という面、反省する面が持てなかったのも事実です。

私も受刑生活の半分も過ぎたので(20分の10)、しかしまだまだこれからも大変な事もあるかと思いますが、私以上に悩み苦しんでいる人がいるという事も忘れないでいます。私も身内の弟に金銭を持ち逃げされ行先がわからなく、こんな事で困っている状態ですが、それでも血のつながった兄弟なのであきらめもつきます。しかし、前に会のお金とパソコンのデータを盗んだふとどきものは言ったら赤の他人、そんな苦しい中、この会が5年目を迎えた事はすばらしい事と思います。私も金銭を持っていかれた事にくわえ

10 年を過ごすまでに所持金はなくなっているの、こちらでは働いた金銭を送る事が不可能で、以前のような国から給付金が出れば、それを前のように送金可能で送れたのですが。この中では本を読んで過ごすか、私の場合、絵を描いて過ごす方法しかありません。独居だと中々情報も入ってきませんし、給付金がでていないのかもしれない。なので、現状として大型連休の前に提供本を送って頂くのが唯一のことなのです。正直に切手を毎月少しずつためて、1 年間ためたとして、ほかには何も買わず、それを送ったにしても、例えば 10000 円送ります。7000 円の中で本代+寄付 30%を払うとほとんど 10000 円と変わらない計算となってしまう。正月早々にこんな手紙とは思いますが、現状として私は何も出来ない気持ちで一杯です。何か方法があればよいのですが。令和 2 年となり、またあらたな気持ちで生活していきます。皆様にとりましては健康第一で無理にならない程度で活動してください。

阿 Q 正伝を読んで」



阿 Q 正伝、1 回読みました。第 1 回目の感想は…。阿 Q の「精神勝利法」という思考回路は、ある意味ポジティブで、自分の素の心…。裸の

心が他人の悪意や理不尽な社会の中で傷つかぬように、バリアーを張って守っているのだと思います。心のバランス、均衡を保つ為に自然と身につけた防御法なのでしょう。阿 Q にはそんな意識はないと思うので、無意識に防衛本能が働いたのでしょうか。私もある面では似ているのかもしれませんが。ただ、阿 Q には「学習」という大切なものが欠如している…。過去の出来事に学ぶことが出来ない。失敗を次に活かさないのです。そして自分自身の評価が客観的にできない。人と比べて満たそうとするからいけない。悲しい結末でした。

幸せも自由も自分の心次第。求めず、欲せず、期待せず。ありのままの自分を自分で愛する事。今生きてることに感謝できれば、人生はそんなに悪くないですよ？捕まって知り合った人もいる。こうならなければ出会わなかった人たち。そう考えると人生ってとても不思議ですよ～。阿 Q もその一人です。(笑) 人は自尊心が傷つくこと恐れますよね。他人に対してではなく、本気を出して結果が出ないことが怖い。自分の限界を知るのが…。あるいは己の無知さが。背伸びせず等身大の自分でいることが一番楽し、幸せですよ。ただ自分も聖人君子ではないので、表面には出しませんが、心の中で優劣つけたり、勝手に色々なラベル貼ったりします(笑) また少し時をおいて再読してみます。

昭和は遠くなりにはけり

西原瑛子

私の 20 代の頃は「明治は遠くなりにはけり」と言っていたものですが、アッと言う間に昭和が遠くなってしまいました。

先日急に次女が私を一泊の旅につれだしてくれました。青梅市へ梅を見にゆきました。途中でこれまた急に昭和記念公園に下車しました。

聖書に出て来る、イスラエルにある、レバノン杉が昭和記念公園のふれあい橋の行く手の右側にあると教えてくださった人があって、それを見にいったのです。しかしそれはヒマラヤ杉でした。がっかりしたので 日本庭園にゆき、盆栽をみました。五葉の松は樹齢 80 年ぐらいですから、私より少し若い。

2 時間ぐらい見て回ったので I 万歩以上歩き、青梅に向かいました。青梅に着くとお昼でした。娘はスマホでしらべて、レトロで人気のあるお店に連れて行くと言って坂道をのぼりはじめました。

年寄りはお腹がすくと、急に元気が失せると、母が言っていたものですが、ほんとでした。私は歩けなくなって、ガードレールによりかかりました。娘は「そこで待ってて、お店探してくるから」といって、坂を上ってゆきました。しばらくして戻ってきて手を引いてお店に連れていってくれました。

木造の平屋、入るとお店と厨房の間の部屋がゴミの山、レコードがすべりおちそうです。正三角形の古い木のテーブル。6 人掛け。奥の部屋には若いカップルがカレーを食べている。客はそれだけ。私もカレーが食べたくなって、鳥肉カレーを注文し、娘は野菜カレーにしました。メニューはそのほかに焼うどんだけでした。できるまで長い時間かかったから部屋中を眺めました。出窓の下は青梅線が走り、振動で窓に積もっている埃が動く。静かな時間。やっと、ニコニコ顔のお爺さんが藍色模様の和皿に縁までいっぱい玄米ご飯とカレーを盛って現れた。節くれだった手で正三角形のテーブルにおいて、「サラダもいりますか?」と。「はい、お願いします。」

今度はすぐに出てきました。ポテトサラダ。胡瓜と人参がほんの少し載っていて、兎型に切った林檎が一切れ添えられている。ほんとに昭和のご馳走。埃もレトロのうちにはいるのかしら。これ、おばあさんが経営していたら、客に怒られるのではないのでしょうか? お爺さんだから皿いっぱい盛り付けてあっても、ほこりがあってもほほえましいのです。盛り付けが美しくないのがおかしくて腹も立たない。

青梅の町全体が昭和ムードで、昭和の映画スターの写真がはってあり、赤塚不二夫記念館がありました。

コロナウイルスの件で梅見のイベントは中止でしたので、人もいず、ゆっくり梅を見ながら、語りあえました。

私は85歳なので、3月でかえるプロジェクトを引退させていただきます。

昭和は遠くなってしまったのです。

汪さんの報道により、若者の支援者が現れ、安心しました。

若いセンスで編集してください。

とてもうれしいことです。

私には個人で15年文通している方が出所された人も入れて、まだ35人あるので文通だけは死ぬまで続けてゆくつもりです。

医療刑務所には月2回面会にゆくつもりです。私の家から近いからほんとうによかったのです。病人の方が私の近くに移送されてきたのです。祈りはきかれました。

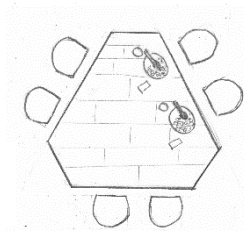
退会してもどうか遊びにはおいでください。嗅覚が失せて、味覚に自信がありませんがそこはかんべんしてくださいね。

見よ、兄弟が共に座っている。

何と言う恵み、なんとという喜び。

詩編133:1

これまで皆様いたわってください、ありがとうございました。



真上から見たら
こんなテーブル

かえる工房 会計報告

2017年12月より、

会計 西原瑛子

2017年

収入計	35460
支出計	18600
残高	16860

2018年

繰越金	16860
収入計	49832
収入合計	66692
支出計	57460
残高	9232

2019年

繰越金	9232
収入計	40722
収入合計	49954
支出計	45184
残高	4770

2020年

繰越金	4770
収入計	11338
収入合計	16108
支出計	10490
残高	5618

2020年3月6日現在残高 5618円

収入＝便箋はがきの売り上げ・寄付

支出＝インク・用紙・封筒代

収入・支出の明細を知りたい方には別刷りの報告書をさしあげます。

講演会・イベント企画



Gabriela 井手愛子 s.c.q.

“ほんにかえるプロジェクト(以下pjと省略)“は「受刑者の更正と社会的弱者の自立を支援し、個人の人格の尊厳を取りもどすことを目的(規約第4条)とする」支援団体です。

受刑者への直接的な支援のほか、受刑者についての理解を深め、更生支援について正しい知識と態度を養成するために、啓発的な活動を行います。

そのために、創立の翌年から講演会・イベント等を企画し実行してきました。

第一段階 (第1回～10回)

第1回 2016年8月 汪楠氏の「ほんにかえるプロジェクト創立について」が主題でした。受刑経験豊かな汪氏の話は、実にリアルで、刑務所の仕組み・刑務官の対応・受刑者達の日常に触れ、独特の軽快な話術で、参加者を未知の世界に惹きこみました。

参加者の反応は、「初めて聞く世界・受刑者の苦しみを知ることができた・何らかの支援活動に参加したい」等々、驚きと好意的な関心に溢れていました。

(ヤッタゼ!?)

第2回「ライフアーズ」上映

第3回「私はどこに帰るのか」

汪楠のビデオ上映&トーク

第4回 ふれあっていますか?

第5回 pjの歩み

第6回 夏の祈り 平和への希求

第7回 聖母マリアとクリスマス

第8回 心が解放される時

庄子氏 童話「みにくいシユレック」

これ以後「童話を読む会」を企画

第9回 小さなみのり

第10回 罪について

以上、場所はケベック・カリタス修道女会(横浜青葉区)で行いました。

各回のテーマはpjの発足に即して時宜にかなったものでした。

しかし、トピックから学びへの展開が必要になりました。

第二段階 (第11回～15回)

加害者の支援活動をするとき、おのずと罪や悪について考えることになりました。

聖書や教会は伝統的に罪とか悪とか罪びとをどうとらえているのか、系統的に学び、活動方針の根幹にすえたいと思いました。

そこで鷺沼教会(川崎市)の阿部仲麻呂神父様にご相談したところ、5回構成のプログラムで引き受けてくださいました。

第1回 2018年8月 悪について

- 第2回 苦しみの意味
復讐か祝福か
- 第3回 神の業の表裏一体性
慈しみと裁き
- 第4回 人間論
自由意志/自己中心性
- 第5回 救済論 構造悪/解決
不能な頑固なる現実

場所は鷺沼教会のご好意により地下ホールで全5回行うことができました。鷺沼教会の信徒の方々を中心に毎回30～50名の参加者でした。

難解な神学を平易な言葉で話していただき、解りやすく有難かったという、参加者の感想が一番多かったです。学識深い神学者の神父様の講演を前に、会場には、“解るだろうか？”という期待と緊張感がありました。その空気を察してか、神父様はご自分が司祭になって、最初に派遣された教会での経験を話されました。

先輩の神父様たちが、しっかり教会の管理運営、指導を果たされていて、ご自分の場が無かったそうです。安心して居る場もなく、とうとう教会内の告解所(畳1/3の広さ)にこもって、祈りと研究に過ごされていました。すると信徒の間で、いつも告解所に司祭がいる、とうわさなり、行って見ようとなりました。なにしろいつでも居るわけですから、自分の都合のいいときに行けるわけです。やがて相談から始まり

罪の赦し、回心の恵を受ける信徒が増えていきました。回心のあるところ光がさします。

私もこのお話が大好きです。講和の内容は忘れても、このエピソードは聴く人の心に残ります。

全5回の講話をとおして、悪について構造的な捉え方を学びました。

「回心しなさい、天の国は近づいた！」は宣教活動を始められたイエスの第一声です。阿部神父様は狭い告解場で耐え忍びながら、主イエスの使命の協働者として招かれていらっしやっただけでしょう。

第三段階 (第16回～24回)

さて、これからどうしよう、二段階まで終って、途方にくれました。

個人的には神父様ご専門の「教父学」に関心がありました。ご相談すると、「神学校で講義している全9回の“教父学”がある」。長すぎる。5回では無理だろうかと思つた末に、折角のご提案、そのプログラムでお願いすることにしました。

より多くの人にアピールするために、カトリックのメッカ四谷に進出することにしました。

教父学 (全9回)

— 共同体の牧者たちの霊性

講師 阿部仲麻呂 (サレジオ会士)

6月1日～3月1日

四谷 岐部ホール

- 第1回 2019年6月
①「教父」について
②聖なる生き方への憧れ
- 第2回 ③神学の揺籃
④日常生活の極意
- 第3回 ⑤信仰擁護と秘儀教話
⑥聖霊論の深みへI
- 第4回 ⑦聖霊論の深みへII
⑧東西の美論
- 第5回 ⑨司牧的配慮
⑩神のことばを生きる
- 第6回 ⑪聖なるキリスト者たち
⑫聖性論: 教父思想と福者ニューマン、フランシスコ教皇「喜びに喜べ」
- 第7回 ⑬古代から中世への思想的な架け橋
⑭西欧文化の立役者たち
- 第8回 ⑮独自の秘儀思想
⑯聖なる女性たち
- 第9回 ⑰西方教会の偉大なる牧者たち
⑱宇宙的神化論の奥義

*コロナウイルスの影響で第9回は
6月14日(日)に延期。

テキスト 古代教父の神学
— 共同体の牧者たちの生き方
阿部仲麻呂 著

(CD) 欠席者と参加者の理解を支援するために準備しました。

ある時、神父様は追加でお願いしたA4版のテキスト10冊を、なんと30冊まとめてお持ちになりました。一番安い紙を使うので、とにかく重い。驚きあきれ、電車の乗り継ぎなんかを考えているうちに、徐々に、感謝と尊敬の念に浸されていきました。

阿部仲麻呂師 略歴

1968年東京都出身。

1982年受洗。

1990年サレジオ会入会。

1997年司祭叙階。

2009年神学博士(基礎神学・教義神学・教父思想)。

現在は日本カトリック神学会理事をはじめ各種学会・協議会・委員会等で指導活躍。

福岡・東京カトリック神学院・上智大学・桜美林大学の兼任講師も務める。

著書:「信仰の美学」

「徒信条を詠む」

まとめ

2016年8月~2020年6月迄

計25回(9回目を残す)の講演会を行ってきました。

- *参加者は延850名を越えました。
- *各イベントでミニバザーを行い、スタッフもボランティアも参加費を払ったおかげで約112万円の収益が活動資金として計上されました。

5年に及ぶ長丁場を終わって・・・

25回の半分以上を引き受けられた阿部仲麻呂神父様の存在が講座を実現しました。心から感謝申しあげます。

スタッフの皆様、本当によくお働きでした。皆様の力添えがなかったら、この企画は実現しませんでした。本当にご苦勞様でした。

ボランティアの皆様、人手不足のところを気持ちよくお手伝いいただき有難うございました。

参加者の皆様、睡魔に襲われる時間帯にもかかわらず、ご熱心な聴講を有難うございました。

また不慣れな私共に寛容な対応を示してくださり、励まされました。報われる思いでした。

岐部ホール関係者の皆様、大幅に申し込みが遅れたにも拘わらず、便宜をおはかりいただきました。

また父の家にいるかのような、自由に振舞える空間を提供していただき、有難うございました。

スタッフの庄子佳代子様(総務担当)

“シスター休んでください!”と言われた時、強盗に襲われた(不慮の圧迫骨折)人がサマリア人に助けられ、感じたかもしれない気持ちを味わいました。すべてを引き受けてくださいました。真に有難うございました!!



阿部仲麻呂神父



岐部ホール 講演風景



事務局長

汪 楠

ほんにかえるプロジェクトには多くの受刑者からお手紙をいただいています。手紙の中ではご自身の生い立ちを書く方もいれば、今受けている理不尽な扱いについて書く人もいます。社会との接点が断たれた受刑者にとってほんにかえるプロジェクトは心情を吐露できる貴重な存在になっています。

活動が5周年を迎えるにあたり、新たに「プリズン・ライターズ」コーナーを設けました。このコーナーが意図しているのは、受刑者に代わって社会に発信することであり、なぜ犯罪に走り、なぜ更生できなかつたかをはじめ、各々の心情を語る場としても活用していただきたい。そして刑務所で遭遇するいろいろな問題も社会に向けて発信していきたいと思えます。

具体的に説明しますと、ほんにかえるプロジェクトは映像制作のプロの協力を得まして、YouTubeに投稿できる運びになりました。投稿内容としては以下のように考えています。

① 過去の自分を捉え直す：なぜ犯罪

に至ったか？意志とは何か？環境がそうさせたのか？

- ② 今の自分を客観的にとらえる：社会に対しての敵意は残っているか？家族に対してどう思っているか？事件に対していまはどう考えているか？
- ③ 出所後について：生きがいはあるか？仕事をどう選択するか？
- ④ 更生とは何か？居住、生活、就職などの順応、時間・金銭・健康をどう管理するか？
- ⑤ 社会からの孤立をどう防ぐか？友達、交際相手をどう作るか？
- ⑥ 自分を救うものは何か？セフティーネットとして行政、市民団体、宗教ないし信仰心、家族友人知人のあり方。

この企画はスタートしたばかりで、外部の人も模索しながらの作業になりますが、受刑中の方もご提案ください。受刑者からの手紙については本人の承諾を得た上原則として匿名で公表します。個人を特定するため、会員番号を掲載します。手紙の原本を画像としてYouTubeにアップし、視聴しやすいように字幕を付けます。手紙の画像の後に私の解説が流れます。このような作りを想定しています。この企画についてのご意見をお寄せください。

賛同される内部会員はほんにかえるプロジェクトの住所で内山直樹あてにお手紙ください。

なお、この企画はアメリカの試みを参考に行いました。

獄中からシャバへ

暴かれる内事情、米国の囚人たちが彼らの実話をシェアする「プリズン・ライターズ」

獄中での実話…なんて暴露本はいつの時代も売れるように、「刑務所」を題材にしたものはヒットしやすい。米国でも同様、大人気ドラマ『プリズン・ブレイク』や現在好評の『オレンジ・イズ・ザ・ニューブラック(女性刑務所の人間ドラマをコミカルに描いたドラマ)』やドキュメンタリー番組などこの手のネタへの食いつきはいい。

マフィア、ギャング、ドラッグ、いじめが蔓延するその小さな閉ざされた社会には薄かれ濃かれ興味があるもの。

そしていま。出所後ではなく、米国の獄中から囚人の実体験談がシェアされるプラットフォーム「PRISON WRITERS(プリズン・ライターズ)」がある。書き手は全員、獄中の囚人。外界からもっとも遮断された社会の一角から、彼らはシャバに向けてリアルに語る。

暑すぎて囚人死す？ 囚人によって暴露される内事情

この夏、尋常でない暑さの過酷な刑務所生活が露呈された。テキサス州ダラスの連邦刑務所の囚人がプリズン・ライターズに「夏の刑務所は地獄」と日々の

体験談を共有したからだ。夏を越せない者もでるほどだという。蒸し風呂並みの暑さをこえて、地獄の釜風呂状態。

看守によって水・氷が配られるのだが、いじめや嫌がらせ、権力のある囚人に奪われたり誰かが買い占めたり、丸1日水にありつけない囚人も少なくないという。刑務所運営側はこの状況を例年知っておきながら問題視すらしてこなかった。

こういった刑務所のシステム上の問題や内事情の様々が、日常的に明るみに出ている。暴露するのは囚人たち、プリズン・ライターズは獄中の囚人がその経験をシェアできるプラットフォームなのだ。立ち上げ人は、CBS News、CNNで犯罪・刑務所ドキュメンタリー番組を手がけてきたテレビジャーナリスト、Loen Kelley(ローン・ケリー)。

現在、数人のボランティアの編集者でまわしており、執筆を志願する囚人がプリズン・ライターズ宛にストーリーを投稿、採用されればオンラインで公開される。編集者といっても、文字校正や刑務所用語をわかりやすく直す程度で大幅な書き換えは一切ナシ。

インターネット上での共有という即時性に反映される、囚人のリアルな声にこだわった。米国の獄中生活が、囚人の手によってあらわになっていく。

内部会員の皆様へ



事務局長
汪 楠

システムの変更について

ほんこかえるプロジェクトははるか昔まで5周年を迎えました。厚く御礼申し上げます。

この5年間に研習所側のルール変更に対応するべく、PJもシステムの変更を強いられ、そして内部会員の要望に応えるためにもシステムの変更を行ってきました。今回は入会を待たせている約70名の受刑者を迎えるためにシステムを以下の内容で統一することにしました。ご理解ください。

会員種別

1部会員：会費免除

会費免除会員(会員総数20%以内)

・無償本送付のみ

2部会員：会費 2,000 円(現金)

2,900 円(切手)

フルサポート (スタンダードコース)

- ・無償本送付
- ・アマゾン書籍購入代行

・各種検索代行

・写真プリント

3部会員：会費 1,000 円(現金)

1,400 円(切手)

アマゾン書籍購入代行のみ

この内容で、ご希望の会員種別をお選びいただきたく、今回希望記入用紙をお配りします。新年度、2020年10月から新システムに移行したいので、8月までに用紙を返送してください。

各サービスの利用方法と寄付

◆ 検索代行

書籍の最安値検索：月に20冊まで
ジャンル・出版社・作家等に拠る書名・
最安値検索：月に20冊まで
グーグル等、ネット検索：月に2件
 (2項目)まで

写真プリントは原則として「写真カタログ」にあるものに限り
※処理能力に限界があるので、ご理解
ください。

◆ 検索代行寄付

書籍最安値検索

出版社・作家による書名検索等

20冊:100円(白黒プリント代込み)

グーグル等ネット検索代行寄付

検索代：1件(1項目)200円

プリント代：白黒50円/枚、

カラー100円/枚

写真プリント寄付

Lサイズ:100円、2Lサイズ:150円

◆ アマゾン購入代行寄付

購入した書籍代、業者送料の総額の30%（端数切り上げ）の購入代行寄付をいただきます。

◆ 転送寄付

書籍を事務局から転送する際は、業送料、転送料実費のほかに1冊100円の寄付をいただきます。

但し、特別な事情がある場合は考慮します。

無償提供本について

・「無償提供本」は1部、2部会員の全員が、年に12冊まで、送料無料で受け取ることができます。但し、リストから選んだ本をリクエストいただいた方に限ります。

・年に12冊を超えて希望される方からは、1冊100円～200円の送料カンパをいただきます。（リストに掲載の価格は送料です。）

- ・無償提供本リストは年に2～3回、「かえるのうた」に同封します。
- ・在庫状況は毎日変化するため、在庫切れが発生いたします。必ず希望冊数を記入して、多めにリクエストしてください。
- ・読み終わった無償本はご寄付いただくと助かります。またほかの方がそれを利用することができます。但し、PJは送料を負担する余裕がないので、送り主の負担となること、人的余裕がなく受領のお礼を省略させていただくことをご了承ください。

あざみ野に シスター訪ねし 日を
想う そのたおやかな 姿なつかし

代表 田中 伸彦

祈りの日々のなか、絶え間なく汪楠さんを力強く支え、収監されている人びとへの温和な眼差しと慈しみは、私のような宗教と無縁に暮らす者にも、ある種の尊厳さを感じさせるものでありました。

この度「ほんにかえるプロジェクト」の副代表を退く決意をされると聞き、大きな支えを失う無念さを覚えます。シスターを慕いこのプロジェクトに関わって下さっている教え子の方々への影響力も得難いものと思っています。彼女たちの存在は日々の活動の大きな力です。

副代表を退かれても「ほんにかえるプロジェクト」へ寄せるシスターの思いは大きくまた力強く頼りになるものです。副代表のお立場での長い間の活動に感謝を込めて心からお礼申し上げます。

また、丁寧な編集と心温まる挿絵で「かえるのうた」を支え続けてくださった西原瑛子様も今回の20号をもって編集の役割を終えると承っています。長い間「ほんにかえるプロジェクト」を支え続けてくださった、お二方の第一線からの引退は残念ではありますが、新たな体制を整え明日に向かっていく所存です。

井手シスター、西原瑛子様長い間本当にありがとうございました。

感謝 事務局長 汪 楠

ほんにかえるプロジェクトを立ち上げる時にまず自己資金と自力で始めようとなりました。所管機関に相談したところ、私は外国人のため、入国管理法上、いくつかの活動が制限され、団体運営も制限されていることを知りました。そこで運営主体として活動することをあきらめ、賛同者を探し、その流れで後のPJ代表の田中さんと副代表の井手シスターのご賛同を得て、PJをやっと立ち上げることができました。そして西原瑛子さんもすぐに参加してくださって、わずか5人で活動を始めました。

この3月で副代表の井手シスターと編集及びかえる工房担当の西原瑛子さんが退任されます。5年間本当によくPJに貢献されました。厚く御礼申し上げます。個人的にも大変お世話になりました。お二人とはとある団体で同じスタッフとして活動している時に知り合い、活動方針の相違があって、その団体のスタッフを中心にPJを立ち上げた。発起人としての私は事務局長に就き、更生支援活動の大先輩のお二人の助けがあって初めてこの活動を始め、今日まで継続できたのです。本当に心から感謝しています。時には厳しく、時には優しく接してくれたおかげで私は再犯することもなく、今日も堂々と生きていられることに、言葉では言い表せない思いがあり、数々の迷惑をかけたことを思い返し、涙が溢れます。

井手愛子シスター、西原瑛子さん、ありがとうございます。本当にありがとうございます。機会がありましたらまた会ってください。受刑者会員を代表してお二人の功績に感謝し、ご健康をお祈りいたします。

ほんにかえるプロジェクト 2018年度決算報告

【収入】

前年度繰り越し	48,133
外部会員会費・寄付	803,137
内部会員会費	58,000
イベント収入	458,470
合計	1,367,740

【支出】

事務局家賃	360,000
事務局光熱費	93,428
通信費(含ネット回線 使用料)	118,364
郵送料	46,616
事務消耗品	47,025
スタッフ交通費	55,630
印刷費	46,725
雑費	14,257
盗難による損失	351,500
合計	1,133,545
次年度繰越	234,195



編集後記

いつの世にも戦争はあり、災害も起こる。そして今コロナウイルス感染が世界中の問題になっている。福島原発の汚水は海に流されるのだろうか？流さぬとしたら、どこに保管するのだろうか？ほんとうにむずかしい問題だらけです。無知な老婆は何も言えない

ただひたすら言わねばならぬことは世界中が戦争をやめること、とてつもない金持ちになろうと思わないこと。財欲が戦争をひき起こすのです。世界中がコロナウイルスと闘っている今こそ、心を合わせて戦争放棄してほしいです。戦争は大量殺人。戦争を起こす人は刑務所にはいるべきです。保釈金でシャバに出すべきではないと思います。

貧しくもせず、金持ちにもせず、私のために定められたパンで私を養ってください。飽き足れば、裏切り、主など何者か、と いう恐れがあります。貧しければ、盗みを働き、私の神の御名を汚しかねません。 箴言 33:8-9

私のために定められたパンを棄えていたいです。これから**プリズン・ライターズ**が映像制作のプロの方の協力で始まるそうですが、どうか受刑者の方々にとって良い方向へと向かいますように祈りつつ私は今号をもって去らせていただきます。感謝。2020・3・6 記

アヌ

ほんにかえるプロジェクト

<外部会員募集>

外部正会員年会費 (10~9月)
3000円

寄付もよろしくお願いたします。

振込先

ゆうちょ銀行 10160-86239211

他行からの場合

ゆうちょ銀行 018 支店

(普通) 8623921

口座名義 ほんにかえるプロジェクト

ボランティアスタッフ募集

在宅作業

パソコン入力・文通スタッフ

自宅住所は公開しません。

プライバシー保護に細心の

注意をはらっています。

かえるプロジェクトの

出版物・印刷物

汪楠著「我的童年」500円

汪楠著「獄中書簡」500円

絵ハガキ 1枚 60円

絵入A5 便箋 10枚 100円

絵入A5 便箋 10枚名入り 150円

売上金はPJの活動資金になります。

発行所

〒134-0003

東京都江戸川区春江町 5-15-31

ほんにかえるプロジェクト事務局

電話 080-8811-5465